

2008年7月2日

LAS-E継続状況の点検結果について
(通知)

LAS-E判定委員会

判定委員長 寺西 俊一

判定委員 山本 武

判定委員 杉本 裕明

LAS-E判定委員会において、2007年度の取組み結果についての監査報告を受け、その状況を点検・検討した結果、以下の所見を通知します。

1. 運用自治体

京都府八幡市

2. 運用中の類型区分

エコアクション(環境活動)部門	第1ステージおよび第2ステージ
エコマネジメント(環境経営)部門	第1ステージおよび第2ステージ
エコガバナンス(環境自治)部門	第1ステージおよび第2ステージ

3. 点検の対象となった期間

2007年度(第1ステージ第5期目、第2ステージ第2期目)

4. 取組み状況に関する所見

所見につきましては、別紙にて通知いたします。

所見

〈全般的な事項〉

平成 20 年 2 月に行われた共通実施項目の監査および 6 月に行われた独自目標の監査は適切に行われており、エコアクション部門、エコマネジメント部門、エコガバナンス部門の 3 部門で取り組みが維持されていると判断いたします。

また、監査の手法においても、第 2 ステージの内容を踏まえ、部門ごとの取り組み分野を明確にした適切な監査計画の下で監査を実施されています。

第 2 ステージでは、地域全体に及ぶ目標を立て、それを達成するための施策を行政的手法を駆使して推進するため、取組内容も評価方法もより成熟した環境自治体としてチャレンジングなものにしていく必要があります。

こうした高度な目標に対して実態把握やチェックといった PDCA サイクルを実施できたことは評価します。ただし、目標設定の考え方や評価の方法、取組内容等の質的な面について、さらなる充実を期待します。

絶えず、この取り組みの意味を考えたり、共に行動する市民の声を受け止めつつ、環境基本計画の施策を適切に点検し見直していくしくみとして活用していく努力を今後も続ける必要があります。

〈良かった点〉

- ・パフォーマンスの面についてみると、エコアクション部門・第 1 ステージの項目については引き続き目標を達成しており、5 期目で削減余地も少ない中で前年よりも削減に成功した市の事務事業分の温室効果ガス排出量など、職員の努力を評価します。

〈今後について〉

- ・エコアクション部門・第 2 ステージの項目において、達成に至らなかった独自目標が多く見られました。しかし、第 2 ステージの目標は、例えば温室効果ガスの排出係数上昇のように、市以外の影響を受ける面も大きく、むしろ達成できない項目が出てこざるを得ません。第 2 ステージでは、現状では自治体が自分達でコントロール不可能なところにどうチャレンジしていくかの工夫が問われるステージです。
大事なことは、自治体で管理できる部分とできない部分を明確にすること、そして管理できない部分については、例えば他自治体との連携や国への要望・提案等、その状況を切り開いていくためのチャレンジングな取り組みを発展させることです。その意味で、未達成の原因の究明と、その原因に対して自治体として何ができるかの検討を深めてください。
- ・また、目標の達成度だけではなく、そのためにどのようなことが行われたかという市や市民・事業者の努力が伝わるような報告、そういったものを踏まえた評価方法についても検討して下さい。